

Vol. **49**
2008



茨城県男女共同参画広報誌

男女共同参画社会を目指して

ハーモニー広場

特集

My Dream My Challenge

39歳からの再チャレンジ
インド舞踊のプロになる夢



H a r m o n y P l a z a

特集 ● My Dream My Challenge

39歳からの再チャレンジ インド舞踊のプロになる夢

23歳でプロのダンサーになるという大きな夢を持って、単身インドに渡ったミーナさん。その後、結婚、出産、育児で十年間のブランクを経て、39歳の時にインド舞踊『オリッシイ』を再開。自他共に認めるプロとして、精力的に活動しています。そんなミーナさんに、夢を叶えるまでの軌跡を、語っていただきました。



Profile

インド舞踊プロダンサー

ミーナ (森田三菜子)さん (48)

Meena / Minako Morita

東京都生まれ。結婚を機に取手市に移住。10年間のブランクを経て、39歳でインド舞踊のプロ活動を開始。自主公演のほか、各地で奉納舞やイベント出演、ワークショップなどを行っている。家族はインド舞踊には興味がないが、活動には協力的。長男は和太鼓、次男は津軽三味線が趣味。

<http://meenaorissi.hp.infoseek.co.jp/>

My Challenge

1

仏教遺跡の旅で
インド舞踊に魅せられて

十九歳の時、初めてインドに渡った私は、仏教遺跡を巡る途中で不思議な踊りに出会いました。踊りはもちろん、音楽、衣装、そして足首に付けた鈴(グングル)の音、赤く染めた指先…そのすべてに五感が釘付けになってしまったのです。

日本に帰国後、インド舞踊を習いたいのに見つからず悶々としていたところ、ご家族の仕事の関係で来日していたインド人の舞踊家クム・ラル先生を、知人が紹介してくれました。

先生が教えてくれたのは、『オリッシイ』という舞踊です。その踊りは十二世紀頃、東インド・オリッサ州のヒンドゥー教寺院で巫女が奉納した踊りをルーツとするもので、先生は、インドの間国宝的な舞踊家から、直接この踊りを習ったと

毎日が、Challenge!

何かを「表現」するのが好きでたまらない

基本的に何かを「表現」するのが好きだというミーナさん。主婦としても、舞踊家としても、そこかしこにミーナ流の「表現者」としてのこだわりがあるのです。

1 オリジナルのチケットでインド舞踊の世界観を表現

インド舞踊の神秘的な世界観を表現したいから、自主公演のチラシやチケットなどは、人任せにせずパソコンを使って自分でデザイン。



2 大好きな「長靴下のピッピ」主人公のイメージを人形で表現

「長靴下のピッピ」はミーナさんのお気に入りのキャラクター。主人公のイメージで、かわいらしいマスコット人形を製作するのが楽しい。



3 リメイクした洋服はその時の自分が一番着たいもの



「こんな服があったら」思ったら、すぐ形にしてみる。着古した服をコラージュすれば、オリジナリティあふれる服に変身!

のこと。素晴らしい先生から「本物」の踊りを教えていただくうちに、いつしか「インド舞踊のプロになりたい」という夢を抱くようになりました。それから二年後、私はインド舞踊を極めるために、以前、イタリアに留学している姉を訪ねた時に知り合った南インドのマドurai市の市長夫人を頼って旅立ちました。結局、その旅では、私が求めているような先生と巡り会うことは出来なかったのですが、彼女の紹介で、現地の刑務所への慰問活動として、自分の舞踊を披露するという機会に恵まれました。日本から持ってきたテープをカセット・レコーダーでかけ、日本で習った『オリッシー』を踊る日本人の私を、誰もが真剣な表情で見えています。踊り終わって、彼らから惜しめない拍手と笑顔をもたらした時、感動で胸が震えたのを今でもハッキリと覚えています。けれども、その後、私は結婚。二人の子ども

My Challenge

2 専業主婦として十年情熱が再燃今度こそプロになる!

再びインド舞踊への情熱に火をつけたのは、平成十年の冬、ある友人からの電話でした。私に「インド映画の上映会で、踊ってくれませんか?」と声をかけてくれたのです。当時『踊るマハラジャ』というインド映画が大ヒットし、世の中でインド文化への関心が高まっていました。会場はつくば市のノバホール。千人も入る大ホールで踊れるなんて、夢のような話です。でも、インド舞踊から

を出産し、日々を育児に追われ、夢を中断せざるを得ない状況になりました。

十年も離れ、まともに覚えているのは二曲だけという私に、果たしてそんな大舞台が務まるのだろうか…。そう思うと、プレッシャーで押しつぶされそうでした。そんな時、運命が呼び寄せてくれたのか、インドに帰国していたクムクム・ラール先生のところへ、二週間滞在することができ、先生に踊りを見てもらったことで、自信を取り戻せたのです。ところが、滞在中に体調を崩したのが長引いて、本番の二日前まで熱と咳の症状が治まりませんでした。熱が下がったのは本番前日。イメージ・トレーニングはしていたものの、インドから帰国後、一ヶ月も練習できずに本番に臨むことになり、もう、「心で踊るしかない」と覚悟を決めました。私の踊りは思いがけず大好評で、オリッサ州出身のインド人の男の子たち四人組が楽屋に訪ねてきて、興奮冷めやらぬ表情で「あなたの踊りは素晴らしい。ぜひ、カジュラホフェスティバルに出るべきだ」と言うのです。カジュラホフェスティバルとはインドのカジュラホ寺院で年一回開かれる舞踊の祭典で、そこに出演できるのは一流の舞踊家たち。私にとっては、最高の褒め言葉でした。そして、もう一人、私の踊りを見て「ぜひ、インド舞踊を教えてください」という女性

不思議な縁に導かれて始めた金刀比羅神社での奉納舞は、毎年の恒例行事に



も、楽屋にやってきました。
見知らぬ人を感動させることができる喜び…。私の中に眠っていた、「インド舞踊のプロになりたい」という夢が、再び頭をもたげてきたのです。

My Challenge 3

プロダンサーとして もっと多くの人と 喜びの時間を共有したい

その時、二人の息子はもう小学生。今度こそ、プロになるのだと、私は決意しました。たった二曲しかレパートリーのないプロなどあり得ない。そう思い、生徒に基礎的なステップを教えつつ、これまで撮り貯めていたビデオテープから、舞踊譜をノートに書き起こし、それをもとに毎日、近所のお寺のホールを借りて練習しました。インドにも年に一回、五〜六日間ペースで通い、クムクム先生のレッスンを受けてました。

今年で、つくばでの公演から十年経ちます。踊りに集中していけばいくほど、自分は踊りが好きなのだ、ということを見出す十年でした。踊っている時の私は、森田三菜子ではなく、プロのインド舞踊家ミーナです。踊りのレパート

リーも増え、日々の訓練の成果が、十分以上踊れなかった二十代の頃より持久力もアップしています。祭りなどのイベントに招かれる機会も増え、インド舞踊のレッスンも開講しています。

そんな私に、家族も協力してくれます。インドに行っている間、夫と二人の息子が安心して留守を任せられますし、私の自主公演の時には、受付や裏方などスタッフとして活躍してくれます。子どもが通う小学校で踊りを披露した時は、「お母さん、すごいね」と、とても喜んでもらえました。私が考えるプロとは、好きなものを突き詰めていくこと。何者にも壊されぬ確かなものを、自分の中に築くことではないかと思っています。私と『オリッシィ』は強い絆で結ばれていて、誰も私たちの間を裂くことはできないでしょう。

もう一つ、私は、踊りをコミュニケーションだと考えています。あのインドの刑務所やノバホールのように、インド舞踊の喜びを、もっと多くのお客様と共有したい。そして、ボランティアなどの活動を通じて社会に貢献できたらもっといい。プロとしての活動の中で、そういったことを実現していきたいと思っています。



大地を踏むのは神様への挨拶。さまざまな形を作る指先も、手話のように「意味」を持つ



『オリッシィ』の音楽CDを制作・販売も開始

My Dream

夢を見つけた瞬間

日舞で舞台人の喜びに目覚めた3歳の頃

文京区千駄木で生まれ育ったミーナさん。日舞を習っていた姉の影響で、2歳半から日舞を習うように。3歳の初舞台の時、舞台の上から両親を探し、その姿を確認してから安心したように踊り始めた幼女のあまりの愛らしさに、お客様が大ウケ。以来、何度も舞台上で踊り、そのたびに同じパフォーマンスをしたという。スポットライトを浴び、嵐のような拍手をもらった原体験。「思えば、あれで舞台人としての喜びに目覚めてしまったように思います」とミーナさんは笑う。

幼少期のミーナさん



今年の春に行われたティアラこうとう(江東公会堂)での公演の様子



ワーク・ライフ・バランス
で豊かな毎日を

僕らの心はビタミン剤 人とのコミュニケーションが

アクアワールド茨城県大洗水族館
ボランティアの会「マンボラクラブ」●篠原秀一さん

高校二年生で始めた 水族館のボランティア

今年、茨城大学を卒業し、地元就職した篠原秀一さんは、休日に月一〜二回、アクアワールド茨城県大洗水族館でボランティア活動をしています。ヒトデやカニなどに触れることができる『タッチングプール』のコーナーで、お客様に海の生き物の生態を紹介したり、バックヤード探検ツアーのガイド・アシスタントをしたり、イルカショーで濡れた客席を掃除するなど、活動内容は多岐にわたります。

篠原さんは高校二年生の時、水族館がリニューアル・オープンしたばかりの頃にボランティア登録したので、年齢は若くても六年間の経験を持つ、ベテランのスタッフです。

「学校の勉強と部活以外に何かやりたいと思ったのがきっかけでした。たまたま家から近く、昔から親しみのあった水族館でボランティアを募集していて、これ



▲「タッチングプール」では、興味を持ってもらえるよう、楽しい解説を心がけている

なら無理なくできると思いました。お客様やボランティア仲間、職員の皆さんなど人とのコミュニケーションが、この活動の一番の楽しみです」と篠原さんは言います。

公私のバランスがとれた ライフスタイルが理想

現在、篠原さんを含む百二十三名が、マンボラクラブのメンバーとして登録しています。

「会社を定年退職した人や主婦など人生経験が豊富でもの知らないボランティア・スタッフの皆さんからは、仕事以外にもいろいろな世界や考え方があることを教え



▲子どもにも丁寧に解説。生き物の多様性を知るきっかけにしてほしい



篠原 秀一さん (22)
Shinozaki Shuichi

茨城大学工学部卒業後、日立製作所に就職。釣りが趣味。自然豊かな茨城の海や川で、夜釣りやルアーフィッシングなどを楽しむ。ボランティア活動は、学生時代とほぼ同じペースで続けている。



▲水族館の展示に詳しい篠原さんは、職員からの信頼も厚い

られ、大いに刺激を受けます。また、家庭を持ち、子育てをしながら仕事とボランティアを両立させている人を見ると、自分もそうなりたいと思います」
地元の大学を卒業し、今年から地元企業に就職した篠原さん。休日のボランティア活動については会社にもオープンにし、上司の理解を得ることができました。これからも無理のないペースで活動を続け、バランスが取れたライフスタイルを維持したいと考えています。



▲「食遊三和」は、遊び心をもって楽しく食べてほしいという意味を込めてのネーミング

イキイキ! JOB Stage

「食遊三和」 荻野利枝さん

農家のお母さんが起業 食卓を楽しく元気に!

『食遊三和』は、古河市(旧三和町)の女性農業者のネットワーク。専用の店舗やオフィスはなく、日頃はそれぞれのメンバーが地元で採れた食材を使い、自家製梅干しや杣つき田舎餅など無添加にこだわったオリジナルの農産加工品を、独自で販売しています。また、農園でのトウモロコシもぎり体験や栗拾い体験といったグリーンツーリズムの活動を展開しているメンバーもいます。

代表の荻野利枝さんが扱っているのは、自家製手打ちそばや自家製味噌など。家業の酪農で牛八十頭の世話をするかわら、八年前から毎日百五十食分のそばを打っています。こういった自分たちの個人の活動や持ち味を活かし、ステップアップさせて、地域のために何かした



▲初めは「いらっしゃいませ」を言うのも恥ずかしかったが、今では堂々と笑顔で接客

いと、平成十八年、農家のお母さん仲間六人で、食遊三和を起業しました。

「ネットワークを作れば、イベントなどに共同で出店できるし、販路も広がると考えました。ところが最初にブースを出した『いばらき県民まつり』では、意気込んで何百と作ったセット商品がまったく売れなくて」と、荻野さん。メンバーと一緒に、他のブースはどんな商品を、どんなふうに売っているのだろうと研究。その場のお客様のニーズに合った商品を開発すること、試食や試飲が有効なことなどが見えてきたそうです。翌年の『茨城ねんりんピック』では、研究が実り二日間のブース販売でおみやげ用に作ったセットが跳ぶように売れ、リベンジを果たすことができました。



▲荻野さんは1.2キロのそばを15分で打つ。お客様の前で実演販売することも



▶東京からわざわざ買ってくるファンもいる

メンバーも七人に増えて、設立三年目の今年は、パンフレットを作成したりロゴを商標登録したりと、ますます活動に力が入っています。

「毎月一回、それぞれの仕事が終わった夜に会合をするのですが、例えば他のメンバーが作るお茶と、私の『そば』を使って新しい商品ができないかしらといったアイデアが、どんどん出てきて楽しいですね。メンバーは『食遊三和』という名前と活動に愛着を持っています。もちろん、私も」とニコリ笑う荻野さん。農家の女性パワーとアイディアは、これからも私たちの食卓を、元気に楽しくしてくれることでしょう。



▲メンバーの商品や活動を紹介したパンフレットを作成。イベントなどで配布予定



推進員通信

今、自分にできる活動は

推進員としての活動を地域で生かす

茨城県男女共同参画推進員 吉田光代(つくば市)

推進員応募のきっかけ

平成十七年五月から、つくば市男女共同参画指導員として啓発イベントやセミナーの企画運営などの仕事に携わるようになり、県に推進員制度というものがあることを知りました。そして、男女共同参画の啓発の仕事をしていくうえで、県からの情報や推進員の方々の交流が大事なことはないかと思ひ応募することになりました。

活動内容

現在も推進員のほか、つくば市の男女共同参画指導員の仕事もしており、市の事業である、つくば男女共同参画会議「つくば男・女のつどい」や「男・女セミナー」の企画・運営、これらの内容を市民の方々に報告する「男女共同参画だより」の発行等に携わっていますが、県の推進員としての活動が、こうした市での仕事にとってもいい効果を生んでいます。

ひとつに、昨年十二月に開催した「つくば男・女のつどい2007」では、県の推進員研修で小室淑恵さんの講演を聞いたことがきっかけとなり、小室さんを中心に様々な立場の方をゲストに招いてのトークセッション

を行い、充実した内容のイベントを開催することができました。また、公民館との共催講座を含めて年間約十二回開催している「男・女セミナー」では、昨年度、定員を上回る延べ四百二十五名の方に参加していただくことができ、推進員としての広報啓発活動の成果も多少はあるのではないかなと思っています。このように、県の推進員として得た情報や経験が市の指導員としての仕事につながっていく一方で、市の指導員として携わった事業の成果を県の推進員として広く普及啓発できるなど、相乗効果を上げています。まだ推進員として十分な活動ができていくわけではありませんが、これまでの活動を通して、徐々に男女共同参画社会の実現に向けた協働の気運が芽生え、育ちつつあることを感じています。

今後の抱負

今後は、市内の推進員の方々と協力して、少人数の集まりで個人の感じていることを自由に語り合える場を作っていきたいと考えています。昨年四月から七月にかけて、内閣府男女共同参画局の全面的な協力の下にお茶の水女子大学で行われた「男女共同参画の現代的展開とコミュニケーション」という全十五回の公開講座を受講し、様々な角度からみた男女共同参画社会の問題点等を学ぶことができたので、推進員の活動を通して少しずつお伝えしていければと思います。一人ひとりの自由な暮らしを実現するための社会のかたちとして、楽しく快適な男女共同参画社会を、同じ時代を生きる人たちとともに創っていきたいと思っています。



▲「つくば男・女のつどい2007」県の推進員研修がきっかけで実現したトークセッション。



▲「男・女セミナー」平成19年度は定員を上回るのべ425名の方々に参加いただきました



▲お茶の水女子大学「男女共同参画の現代的展開とコミュニケーション」受講終了!

いばらき

キラ!

ミル!

Myタウン

小美玉市



小美玉市

「市民自治」「協働」の まちづくりをめざして

小美玉市男女共同参画の取組みについて

問い合わせ先

小美玉市

市長公室 企画調整課

TEL:0299-48-1111

FAX:0299-48-1199

小美玉市は平成十八年三月二十七日に三町村が合併して、新たな第一歩を踏み出しました。

市民も積極的にまちづくりに参加していただくため、四月に自治基本条例を施行し、この条例において、市民との情報共有、参画、協働を基本原則と定めて

あります。市民参画や協働の仕組みが整えられ、市民の意見が今まで以上に市政に反映されるようになり、市民自治がより一層推進されるようになりました。

また、まちづくりの総合的な指針となる総合計画を策定し、小美玉市の将来像「人が輝く水と緑の交流都市」の実現のために基本理念を定め、誰もが魅力を感じる交流のまちを目指しているところです。

男女共同参画社会の実現に向けての取組みは、平成十五年に「美野里町男女共同参画行動計画(花のわプラン)」により、一人ひとりがいきいきと輝く男女平等のまちを目指し、平成十七年の「小川町男女共同参画計画(ハーモニー21)」により、交流がもたらすうるおいのある



▲おみたまハーモニー学級きらめき開級式で講演する藤枝芳房氏

まちを目指して推進してきました。市民があらゆる活動に積極的に参加できるよう、小美玉市として新たに「男女共同参画条例」の制定、「男女共同参画行動計画(仮称)」の策定に取り組んでいるところです。

また、男女共同参画推進事業として、平成十八年度から毎年度ハーモニー学級きらめきや父子の料理教室を開催しています。平成十八年度に開催した第一回ハーモニー学級の開級式には、笠間市の藤枝芳房氏をお招きして「いきいき人生―男だから、女だからにとらわれないで―」というテーマで講演をしていただきました。平成十九年三月には、合併一周年記念市民フォーラムと男女共同参画フォーラムを合

同で開催し、茨城大学准教授の長谷川幸介氏を講師に迎え、「新しいまち。新しいつながり」をテーマに講演会を実施しました。併せてハーモニー学級生への修了証の授与式を行い、このような事業を通して、市民への意識啓発の場として多くの方に参加いただいております。

平成十九年度には、県主催・小美玉市後援で男女共同参画チャレンジ支援シンポジウム2007を、小美玉市四季文化館みくろで開催し、「食からはじめよう―豊かなライフスタイルへ」をテーマに中川学園料理教室代表の中川一恵氏による基調講演を行いました。さらに、パネルディスカッションではパネラーのひとりとして、小美玉市の女性農業者に参加いただき、「食と男女共同参画、女性のチャレンジ」について女性の視点から起業のポイントや大切さ等の意見交換がなされ、男女共同参画の認識を深めていただきました。

平成二十年度は男女共同参画条例制定、平成二十一年度は男女共同参画行動計画策定と



▲小美玉市誕生一周年市民フォーラムで講演する茨城大学准教授 長谷川幸介氏
◀チャレンジ支援シンポジウム2007でのパネルディスカッションの様子

位置づけ、市民意識調査を実施し、さらに推進委員会の意見を頂きながら、家庭や職場、地域社会で男女が生き生きと暮らせる、おみたまらしい男女共同参画社会の実現に向けた取組みを進めていきたいと考えています。



行方市

個人が生き生きと輝ける まちづくりのために

行方市男女共同参画推進計画策定



問い合わせ先

行方市 企画課

TEL:0299-72-0811

FAX:0299-72-3226



▲増岡弘氏による「行方市男女共同参画講演会」の様子

▲聖徳大学福岡教授による合同研修会の様子

行方市では、平成十七年九月の合併以後「行方市総合計画『市民と創るなめがた活力プラン』」を策定し、その中で「男女共同参画の促進」の主要施策として「意識づくり、環境づくり、システムの構築」を指針とし、新市にふさわしい男女共同参画の推進を新たなまちづくりの課題として充実した取組を行ってきましました。

平成十八年八月に意識啓発と学習を目的に会員を募集し、市民十八名（現在は二十名）による「行方市男女共同参画研究会」を発足しました。

研究会では、「男女共同参画の現状と課題について」の学習会や、市民の意識啓発をめざして「行方市男女共同参画講演会」を開催しました。講師に、アニメ「サザエさん」のマスオさん役の増岡弘氏を迎え、「サザエさん」の家庭を通して、「男女共同参画の実現は、家庭生活・社会生活の基本であり、幸せて健康な生活を送るためにはどうしたらいいか」をわかりやすく面白くお話いただきました。参加者か

らも「楽しかった、継続してもらいたい」など、有意義な講演会となりました。

平成十九年七月には、市民代表十五名で構成された「行方市男女共同参画推進計画策定委員会」と職員を含めた「ワーキングチーム」を発足し、四回の策定委員会と五回のワーキングチーム会議、二回の庁内連絡会議を開催し、計画の体系や施策、事業などの計画策定だけにとどまらず、今後の推進のあり方も含め討議・決定がなされました。十月には、聖徳大学福岡教授を講師に迎え「男女共同参画時代のまちづくり」をテーマに、各委員の合同研修会を行いました。また、会議と並行して、八月には市民の実態と今後の方向性を把握する目的で、市民千名に対して意識調査を実施しました。これにより、男女間の意識の違いや、行政に対して「男女が共に働きやすい環境の整備のための育児や介護等の施設・制度の充実」「学校教育における両性の尊重・男女平等教育」などが強く求められている



▲策定委員会の様子

ことが明確になりました。

これらの調査や検討、協議を踏まえて、平成二十年三月に「行方市男女共同参画推進計画書」を策定しました。この計画の中では、男女共同参画社会の実現に向けた行政の取組みと、家庭・学校・地域・職場で市民一人ひとりができる取組みの方向を示しています。

今後は、市民のあらゆる立場の人々が参加できる講演会、学習会等ができることから始めていき、地域や日常生活の中に、男女共同参画が着実に根付くように、取組んでいきたいと思っております。

情報広場 いばらき掲示板

I N F O R M A T I O N



イベント

平成20年度男女共同参画チャレンジ支援セミナー(第2回)

「チャレンジ!ステップアップセミナー ~なりたい自分になるヒント~」

再就職やキャリアアップなどへのチャレンジに向けて、必要な能力とは何でしょうか?自分にはどのような能力があり、何が足りないでしょうか?新たなことにチャレンジするにあたり、自分を見直してみませんか?そして、自分らしく、輝く人生をおくるためのキャリアプランの描き方を学びましょう!

| | | |
|------------------------|---|--|
| ■ 日 | 時 | 平成20年7月25日(金) 13:30~15:30 |
| ■ 講 | 師 | 「小澤佳代子のキャリア相談室」 主宰 小澤佳代子氏 |
| ■ 場 | 所 | 女性プラザ男女共同参画支援室 |
| ■ 受 講 料 | | 無料 |
| ■ 募 集 人 数 | | 30名(先着順) |
| ■ お 申 込 み お 問 合 せ 先 | | 女性プラザ男女共同参画支援室 〒310-0011 水戸市三の丸1-7-41 TEL 029-233-3982 / FAX 029-233-1330 |



お知らせ

チャレンジ相談のご案内

女性プラザ男女共同参画支援室では、再就職や起業、キャリアアップ、地域活動など、様々なことにチャレンジして、新しい可能性を切り開いていこうとしている方を応援するため、「チャレンジ相談」を行っています。

コーディネーター・相談員が、皆様方一人ひとりのニーズに応じたきめ細かなアドバイスや関係機関の紹介等の情報提供を行っています。

「何か始めたいが、何から始めればいいのか」「再就職したいが、ブランクがあるので不安」「起業したい、NPOをつくりたい」「どこに相談したらよいかわからない」など、お気軽にご相談ください。

| | |
|---------------|---|
| ■ 相 談 日 時 | 月曜日~金曜日 9:00~17:00 (祝祭日及び12月29日から翌年1月3日までを除きます) |
| ■ 会 場 | 女性プラザ男女共同参画支援室 (面接相談の場合) |
| ■ 相 談 方 法 | 面接(要予約)・電話・FAX・Eメール ※ FAX又はEメールによる相談をご希望の場合は、「チャレンジ相談票」に相談内容等をご記入の上、ご送付ください。「チャレンジ相談票」は次のサイトから入手できます。その他の入手方法につきましては、下記までお問い合わせください。 茨城県男女共同参画チャレンジ支援サイト ▶ http://www.challenge.pref.ibaraki.jp/ |
| ■ 相 談 料 | 無料 |
| ■ お 問 い 合 せ 先 | 女性プラザ男女共同参画支援室 〒310-0011 水戸市三の丸1-7-41 TEL:029-233-3982(サンキューハーモニー) / FAX:029-233-1330 E-メール:josei1@pref.ibaraki.lg.jp |



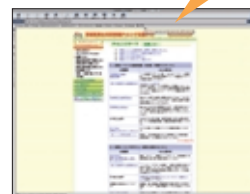
お知らせ

チャレンジしたい人、応援します!

県では、起業、再就職、地域・団体活動など、さまざまな分野にチャレンジしようとする人に対して、チャレンジに必要な情報(関係機関や事例紹介等)を目的別・テーマ別に提供しています。ご利用ください!



例えば、
「起業したい」
をクリックすると



起業にチャレンジしたい人が具体的な活動を行うために必要な情報項目が表れます。

茨城県男女共同参画チャレンジ支援サイト <http://www.challenge.pref.ibaraki.jp/>



公募

平成20年度「男女共同参画推進月間」の標語募集!! ～男女共同参画社会のイメージを言葉に～

県では、職場や地域、家庭などにおける男女共同参画への関心と理解を深め、様々な活動が積極的に行われるよう、11月の男女共同参画推進月間のポスター等で使用する男女共同参画社会をイメージした標語を募集しています。

皆様から、たくさんのご応募をお待ちしています。

これまでポスターに掲載した標語(最優秀作品)です

- 平成19年度 認め合い 男・女で創ろう 豊かな未来
- 平成18年度 ささえあい 共に輝く 参画社会
- 平成17年度 社会に生きる あなたの個性 わたしの個性



▲平成19年度のポスター

- 募集内容等

| | |
|------|--|
| 募集内容 | 「男女共同参画社会をイメージした標語」 |
| 募集部門 | 学生の部(高校生以下)、一般の部(学生以外) |
| 応募資格 | 茨城県内に居住・通勤・通学している方 |
| 応募期限 | 平成20年7月16日(水)(当日必着) |
| 応募方法 | 応募作品のほか、住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・職業・電話番号を明記して、官製ハガキ、電子メール又はファクシミリにより、下記の応募先までお送り下さい。 お一人様何作品でも応募は可能ですが、未発表の自作のものに限ります。 |
- 選考・審査

| | |
|--------------------------|--|
| 標語選考委員会等で審査し、入賞作品を決定します。 | |
| 入賞作品 | 最優秀賞 …1作品 優秀賞 ……5作品以内(学生、一般とも2～3作品以内) |
- 発表

| | |
|----|---|
| 発表 | 入賞者には直接通知するとともに、ホームページ等に掲載してお知らせします。 |
| 表彰 | 入賞作品は、11月に開催予定の「男と女・ハーモニートップセミナー」において表彰し、記念品を贈呈します。 |
- その他
 - 応募作品は返却しません。入賞作品の著作権は、茨城県に帰属します。
 - 最優秀賞受賞作品は、平成20年度の男女共同参画推進月間ポスター等に使用します。
 - 入賞作品が、既に使用されているコピー等と類似のもののみなされる場合は、入賞を取り消すことがあります。
 - 募集により得られた個人情報、作品の整理・入賞者への通知以外の目的では使用いたしません。
- 応募問い合わせ先

〒310-8555 水戸市笠原町978-6 茨城県女性青少年課 男女共同参画担当
TEL:029-301-2178 / FAX:029-301-2189
E-メール:josei1@pref.ibaraki.lg.jp
ホームページ:<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/bugai/josei/josei.htm>



イベントレポート

男女共同参画行政セミナー及び 茨城県男女共同参画推進員研修会を開催しました

県では、市町村の担当職員や県の男女共同参画推進員の方々を対象に、男女共同参画についての理解を深めていただくため、平成20年5月27日(火)に、茨城県市町村会館講堂を会場に、セミナー及び研修会を開催し、約160名の参加がありました。

当日は、内閣府男女共同参画局内閣府本府政策企画調査官の船木成記さんから、「男女共同参画社会の実現を目指して」と題し、広報・啓発活動における情報発信のあり方や、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進について、お話をいただきました。

また、男女共同参画推進員の藤枝芳房さんから、「笠間市からの情報発信」と題し、男女共同参画を考える寸劇やビデオ作成などの活動について、作成したビデオの上映も交えながら、事例発表を行っていただきました。



▲内閣府の船木成記さんによる講演

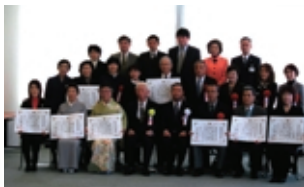


▲笠間市の藤枝芳房さんの事例発表

View in the World

世界の視野で

File 01 ▶ THAILAND



スリーラットさんは、多文化共生ニューズレター「GLOBALRAKI」のタイ語版の翻訳にも参加(左)
長年の国際交流活動や国際教育活動が認められ、平成18年度茨城県国際化推進奨励賞を受賞(中央・右)



互いの価値観を認め合えば 暮らしやすい社会に

価値観のギャップを埋めるための方法

タイ出身の基田スリーラットさんは、結婚を機に神栖市に住んで二十四年目になります。自分の経験をもとに、新たに神栖市の住民となったタイ人をサポートできるよう、平成九年から神栖市の国際交流協会でもボランティア活動をしています。

ゴミの出し方や交通規則など、生活に必要なルールやマナーをタイ語に翻訳する作業が活動の中心ですが、子育てや就職など、神栖市在住のタイ人が抱える悩み事の相談窓口になることもあります。

「今、神栖市には五百一人のタイ出身者がいて、その数は年々増えています。その人たちの家庭では、タイで生まれ育った親と日本で育った子どもとの間で、価値観の違いからコミュニケーションがうまく取れず、悩んでいるという声をよく聞きます。そういう人には、自分の考え方をひとまず置いて、子ども

もの言うことを受けとめてみてほしいとアドバイスしています」と、スリーラットさん。

異なる考え方を認め理解する努力を

仏教国のタイでは、「親を敬いなさい」「命を大切に」など、仏教の教えが人々の考え方に深く根付いています。また、共働きが多く、家に子どもを見てくれる人がいない時は、職場に連れて行くのが当たり前だそうです。

「昔はタイと比較して日本社会を冷たく閉鎖的に感じました。今は人も街も開かれてきたように思います。私自身も茶道や華道、習字などの習い事を通じて日本への理解を深めるよう努力しました。『こうあるべき』と自分の価値観に凝り固まらず、異なる考え方を認め合い、理解するよう努力すれば、誰もが住みよい社会になると思います」



タイ出身▶基田スリーラットさん

大学卒業後、タイの日系企業に就職し、出張で来た夫と知り合う。結婚し1984年来日。夫と義母の3人家族。平成14年から神栖市国際交流協会理事を務める。老後は夫の提案で、のんびり暮らせて医療も充実しているタイへ移住する予定。

CONTENTS

男女共同参画社会を目指して ハーモニー広場 Vol.49

| | |
|--|----|
| 特集●MyDream MyChallenge プロダンサー ミーナさん 39歳からの再チャレンジ インド舞踊のプロになる夢 | 2 |
| 生活にプラス!〈茨城県大洗水族館 ボランティアの会 篠原秀一さん〉 | 5 |
| イキイキ!JOB Stage 〈古河市 食遊三和 荻野利枝さん〉 | 6 |
| 推進員通信 | 7 |
| いばらき キク!ミル! Myタウン 〈小美玉市・行方市〉 | 8 |
| 情報広場 いばらき掲示板 | 10 |
| View in the World ~世界の視野で~ 〈タイ出身・基田スリーラットさん〉 | 12 |